

教科・科目	地理歴史・地理A（必修）		単位数	2単位	履修学年	1年
目標	地理における基礎的な知識を身につけ、世界的視野にたった考察力・思考力を養う。また、二年代世界史につなげる基礎とする。 地球上の様々な地形環境・気象環境・生活様式を学ぶことによって、世界的な広い視野に立って物事を考える力を身につける。					
使用教材	教科書「高等学校 新地理A」、地図帳「新詳高等地図」、「新詳細地理資料」、準拠ノート「高等学校 新地理Aノート」（以上4冊帝国書院）、視聴覚教材					
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解		
	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。		
評価方法	地理の基本的知識の修得 授業に対する取り組みの態度、意欲 課題・ノートの提出					
学期	学習内容			学習のねらい		
1	「地球儀や地図からとらえる現代社会」 「人々の生活と地形」 「人々の生活と気候」			まず、地球の誕生の状況を理解させ、地球上の大きな地形（山脈・平野・河川・湖・海岸地形）の成り立ちと人間生活との関わりを理解させる。 さらに、地球上の気候（気温・降水・風）の状況を把握させ、その気象環境と人間生活への影響を理解させる。		
2	「世界の諸地域の生活・文化」 ・中国・韓国・東南アジア ・インド、中央アジア、北アフリカ ・ヨーロッパ ・アメリカ合衆国			世界の様々な地域と国々の自然環境と、それに合わせた産業の成り立ち、生活の仕方及び宗教・文化を学習する。このことによって、世界的な視野でものごとが判断できる能力を培う。		
3	「複雑に絡み合う地球的課題」 「世界の資源・エネルギー問題」 「世界の人口・食糧問題」 「日本の防災」			現代の地球上の様々な問題（人口問題・食料問題・都市・居住問題・資源、エネルギー問題・環境問題）を具体的に理解させ、今後の課題について考察させる。また、東日本大震災を通して、防災を身近なものとしてとらえさせる。		
学習上の留意点	地理的知識への関心を絶えず持ち、様々なメディアを利用して、地球上の様々な問題点を捉え、その解決に向けて自ら考える姿勢を培えるように学習を進める。					

教科・科目	地理歴史・世界史A（必修）	単位数	2単位	履修学年	2年
目標	古代からの世界各地の歴史・文化を踏まえつつ、15世紀以降のヨーロッパを中心とした世界の一体化の流れを把握し、近現代史までの発展過程について関心を持ち、理解を深める。1学年時で養った地理的な知識を基礎に、歴史的視点に対しての興味・関心を持たせ、現代社会の成立背景を理解する。				
使用教材	教科書「新版世界史A」（実教出版）、副教材「最新世界史図説」（帝国書院）、プリント、視聴覚教材、史料など				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	歴史的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	
評価方法	定期考査 授業に対する取り組みの態度及び意欲 プリント、ノート提出				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	世界史へのいざない 地域世界と交流圏 1. 諸地域世界と文明 東アジア 南アジア 東南アジア 西アジア・エジプト ヨーロッパ アメリカ 2. 諸地域世界の交流 地中海海域とユーラシア 東南アジア海域とユーラシア		原始・古代・中世までの歴史を概観し、各地域の宗教・文化の特性に注目し、それらがどのように近現代の社会に関連・影響したかを知る。また、各地域の人々がどのように交流しあい、文化を発展させてきたかを理解する。一年時の地理的知識を確認し世界史へのいざないをおこないつつ、歴史的事象の原因・背景、過程、影響などを考える。		
2	一体化に向かう世界 1. ルネサンスと宗教改革 2. 大航海時代 3. イスラーム所王朝の成熟 4. 清帝国の繁栄 5. 絶対王政の時代 6. 西ヨーロッパ諸国の展開 7. 東ヨーロッパ諸国の展開		新大陸の発見から大航海時代が始まり、ヨーロッパを中心に世界が一体化する中で、どのように主権国家の成立し、経済発展へとつながったか、日本がどのように関連したかなど、17、18世紀の世界の特質を理解し関心を深める。ヨーロッパ、アメリカにおける自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を中心に資本主義社会と国民国家の形成を理解し関心を深める。		
3	現代の世界と日本 1. 現代世界のあゆみ 2. 第二次世界大戦後の世界		世界戦争と科学技術、そして経済成長と民主主義の発達にともないさらなる世界の一体化が際だつなかで、より激しくなる経済競争が植民地争奪の原因となり2つの大戦へとつながることを理解する。また、戦後の東西冷戦や核開発競争の過程にも関心を持ち、急変する人類社会、持続可能な社会、現代の生き方や平和の意義について考える力を養う。		
学習上の留意点	わが国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解・認識を深めることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することにつながるため、アメリカ独立戦争やフランス革命をはじめとする各項目において、道徳性が高まるような配慮をする。				

教科・科目	公民・現代社会（必修修）	単位数	3単位	履修学年	3年
目標	現代社会の基本的な問題について関心を持ち、理解を深める。 1. 2年で養った地理的・歴史的な視点を活用して時事問題に対する興味・関心を深め、主体的に考え公正に判断する能力と態度を身につける。				
使用教材	教科書「新版現代社会 新訂版」（実教出版）、資料集、プリント、視聴覚教材				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法	定期考査 行動観察（授業態度、意欲） ワークシートやノート、課題の提出状況				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	日本国憲法の基本的性格 日本の政治機構と政治参加 現代の経済生活	憲法学習を中心に現代社会の政治制度についての理解を深め、関心を高めるようにする。統治機構や人権規定などを学ぶことにより、個人と社会のかかわり方について考え、民主的社会の将来の構成員となる自覚を持つことをめざす。 市場原理や景気変動、企業の役割といった現代の経済社会の諸事象に対する基本的理解を深めるとともに、関心をもって考える態度を養うように努める。			
2	日本国憲法の基本的性格 日本の政治機構と政治参加 日本経済の特質と国民生活	現代社会のさまざまな動きに眼を向け、諸問題の背景を中心に基本的理解を深めるとともに、自分たちの生活と結びつけて考えることをめざす。また、時事問題も積極的に取り上げ、課題解決について自分たちがどのように向き合えばよいのかについて考える力を養う。 労働問題、農業問題、消費者問題などの具体的に問題を通じて、経済活動のあり方について考える。卒業後を見据えて、勤労の尊さや意義の理解も深めるようにする。			
3	国際政治の動向 わたしたちの生きる社会	国際平和や貧困等の問題について、日本の果たすべき役割について考える。自分たちが生活する日本について理解を深めるとともに、国際的関係においてこれからの私たちのあり方についても考える。 環境問題や資源エネルギー問題などを通じて、現代に生きる私たちの課題について考える。自分たちの生活と密接にかかわっており、将来にわたって考え続けなければならないことについて、どのように向き合えばよいのかを考える。また、主権者として、日本や世界の将来を考え、政治に参加し、「共に生きる社会」の一員として意識を高める。			
学習上の留意点	時事問題への関心を絶えず持ち、様々なメディアを利用して、自ら関心を深める姿勢が大切である。				